

	放送大学茨城同窓会会報	発行所
	ときわ	放送大学茨城同窓会(茨城学習センター内) 〒310-0056 水戸市文京 2-1-1(茨城大学内) 発行人 会長 葛貫 壮四郎
2009.7.1 現在の茨城同窓会 会員数 83名		
茨城同窓会 Web サイト http://uair-dosokairengo.net/ibaraki/		
茨城同窓会 Mail: ibaraki@uair-dosokairengo.net		

自己実現から地域社会への貢献へ

茨城学習センター所長:朝野 洋一



今、大学にとって、立地する地域への貢献が重要な課題になっています。近隣の諸大学では、地方自治体と協定を結び、大学の人的・知的・物的財産を活用し、街づくりや地域振興のための調査・研究を行うなどさまざまな地域連携事業に取り組んでいます。そこで、放送大学の地域貢献について考えてみました。

本学の場合、放送授業を通じて全国津々浦々に生涯学習の機会を提供していますが、地域社会と直接向き合っているのは各地の学習センターです。したがって、放送大学の地域貢献の主要な部分を担うのは個々の学習センターでしょう。しかし、学習センターには、普通の大学のような財産はありません。ところが、よく考えてみると、放送大学には在學生や卒業生について、普通の大学にはない大きな特色があることに気づきます。普通の大学の場合、学生の多くは県外出身者であり、卒業生は県外に就職する割合が高いようです。これに対し放送大学の学生は基本的に居住地の学習センターに所属し、卒業後もそのまま地元に残ることが多いようです。地元で長年生活し、地域社会の事情に通じ、豊富な社会経験を積み、放送大学で学修した最新の知識を備えている在學生・卒業生の方々は、学習センターの貴重な財産です。一人一人が自立した社会人として十分に地域社会に貢献できる資質をお持ちです。既に公民館や生涯学習センター、あるいは、レクリエーション団体などで指導者として活躍されている方が少なくないと伺っています。

放送大学で学ぶことで「自己実現」を達成し、経験と知識を生かして「社会貢献」することは、生涯学習社会における一つの理想的な生き方ではないでしょうか。学習センターを拠点とする地域貢献を考えると、放送大学の在學生・卒業生の活躍の場を積極的に広げる方策を考える必要があります。放送大学で学んだあるいは学びつつある豊富な人材が地域社会で活用されるシステムが確立すれば、将来、茨城の地に「放送大学文化」が育つのも夢ではないと思います。

茨城同窓会の新たな発展を目指して

会長:葛貫 壮四郎

同窓会の行事などについて、会員の皆様から、貴重なご意見や回答をいただきました。お礼申し上げます。アンケートの集計結果報告書は、総会資料とともに送付済ですが、再度、掲示しますと、下記ようになります。

- 1) ライフワークや卒業研究などテーマを持っている取り組んでいる会員が多く、まさに、地域社会に根を下ろして活躍していることが分かります。さらに、有資格も多く、専門分野でご活躍の方が多く。
- 2) 趣味や参加したいイベントでは、「旅行や山歩き」、「美術館・博物館見



学」、「コーラス・ボーカル」などが多い。

3) 講演会では、「歴史に関する」、「科学技術に関する」、「絵画・美術に関する」が多い。以上の分析結果を基に、役員会で議論し、下記の方針で取り組むことにしました。

- 1) 卒業研究された方、研究テーマをお持ちの方、さらに、今後、卒業研究したい方の場の提供を行う。
- 2) 学習センターのサークル団体との連携を深め、サークル入会紹介や共催でイベントを行う。
- 3) 同窓会独自の取り組みとして、「入学者の集い&懇親会」、「美術や芸術に関するもの」、「趣味のサークル立ち上げ支援」などを実施する。

既に、実施済みの行事として、「入学者の集い&懇親会(4/4)」、「国宝・阿修羅像見学会(4/28)」、「研究発表会(5/17)」、「水戸ロマンチックゾーンを歩く会：ふるさと探勝会共催(5/24)」が上げられます。今後の行事として、「国立歴史民俗博物館見学会：ふるさと探勝会共催(8/30)」、「第3回訪中旅行(10/11～10/15)」などがあります。皆様のご参加をお願いします。

茨城同窓会の各行事においては、会員はもとより、会員の家族、学生、一般の方の参加も歓迎しております。これは、放送大学の英語表記(The Open University of Japan:開かれた大学)の意味とも関係します。春に行われました茨城同窓会の第7回総会(4/12)において、「放送大学に入学、あるいは卒業して入会手続きをした者」に、会則を改め、茨城同窓会活動に賛同いただける学生の方にも門戸を開きました。行事を通じて、放送大学での学ぶ楽しさや地域社会への貢献などを共有して頂きたいと考えております。

各地域の同窓会で組織される放送大学同窓会連合会の総会が開催(5/30)されました。連合会の役員改選があり、茨城同窓会の会長は、同窓会連合会副会長の重任を仰せつかりました。微力ながら同窓会連合会の発展に尽くしたいと存じます。

入会者のコーナ

新入会者のご案内

下記の6名の方が、茨城同窓会に入会されました。よろしくお願いします。

NO	氏名	住所	専攻
1	湯本 鏝三	水戸市	自然の理解
2	所 伸郎	ひたちなか市	発達と教育
3	堀江 洋子	石岡市	人間の探求
4	工藤 恵子	日立市	発達と教育
5	坂井 健司	水戸市	生活と福祉
6	山下 理偉子	ひたちなか市	社会と経済

修了にあたって

放送大学大学院修了:堀江洋子

大学院進学を決心したのは、二年半前の9月7日、学部の卒業認定証が届いた日でした。進学の希望はもっていましたが、受験をして、そしてもし合格できたとしても、どの様に論文を書くのか、仕事と家のことをしながらやっていけるのか。こうしたことが、それまで大学院を現実的に考えることを遠ざけていたように思います。しかし、卒業認定証は、私によるこびと共に夢と希望と勇気も与えてくれました。

私が放送大学の扉を叩いたのは平成12年の春でした。この時まで、私は人生の殆んどを、自分のやりたい勉強に片寄って時間をつかってきました。この影響で学校の勉強が疎かになったため、やり残したことを今からでもやってみたい、という気持ちから入学いたしました。久しぶりの勉強

は、嬉しさより頭の老化を思い知らされるばかりのものでした。しかし、いつしかその気持ちが学ぶ喜び、教えていただける喜び、そして多くの仲間をもてた嬉しさにかわり、以後、放送大学は私にとって素晴らしい存在となりました。二年半前に届いた卒業認定証は、こうした私の気持ちの頂点を届けてくれたものでした。

大学院の2年間は想像以上に大変な日々でした。受験時の研究計画書のテーマは入学してすぐに考え直しとなり、次々テーマをかえ、その度に行き詰まり、ようやくテーマが決まったのが初夏の頃でした。しかし、その後も色々な困難に直面し、頑張っても頑張っても結果が得られない繰返しに、心身共に辛い毎日が続きました。それでも茨城県立歴史館他のご協力で研究が捗るようになり、何とか論文を提出し、単位認定試験にも無事合格して、修了することができました。

学位記授与式と謝恩会に出席し、今よろこびでいっぱいです。この結果は家族、先生方、職員の皆様、同窓会の皆様、友人の支えがあっての賜物です。普段は学歌も学長も遠い存在に思いますが、学歌の演奏をしている時には、歌詞とメロディーにしみじみと心を通わせることができ、そして学長のお話は、親しい良き人と会って話を聞いているように、優しい感じに私を包み込みました。また、多くの人に「おめでとうございます」といっていただいたことは何より嬉しいことでした。



今年度は放送大学10年目となりました。もし私にこれから先も自由な時間をもてる幸せに恵まれますなら、ずっと勉強を続けたいと思っております。学ぶことに感謝をし、そしてよろこびを感じながら、人生の大切な時間にしてゆきたいです。

末筆になりましたが、今年度の謝恩会は茨城の同窓会に大変にご苦勞をいただきました。お陰さまで多くの皆様が思い出に残る素晴らしい時間を過ごされたことと思います。ありがとうございました。

行事報告 & 行事寄稿

入学者の集い・祝賀パーティー報告

副会長: 矢野 正義

平成21年度1学期入学者の集い・祝賀パーティーが去る4月4日(土)放送大学茨城学習センターにおいて開催されました。

当日は、入学者の集いに出席された新入学者のほとんど全員が本パーティーに参加され、開始前から放送大学での今後の学生生活や学習の進め方に関して同窓会役員や先輩からアドバイスや激励を受けていました。パーティーの中では、葛貫同窓会長、朝野茨城学習センター長よりご挨拶の後、先輩数人より放送大学での学習経験やお勧めの学習方法などを話していただきました。



た。続いて新入学者の皆さんより入学の動機、放送大学で学びたいことなどをそれぞれ発表していただき、各人の関心の在りかたや目的意識が判り、お互いに親近感が湧いてきたのではないかと推測されます。

また、恒例となっている各サークル(パソコンクラブ、英会話サークル、ふるさと探勝会、ゴルフサークル、数学共楽会)より活動内容の紹介や入会のお誘いが熱くアピールされました。

当学習センター・同窓会では、在学生・先生・学習センタースタッフ・同窓会員などすべての関係者を対象とするメーリングリストを構築し、多様な情報を流通させています。新入生の皆様には、孤独な勉学の場にならないようにサークルやメーリングリストに参加され、楽しく有意義な学生生活を送られるよう期待しています。

国宝「阿修羅展」の見学を終えて

理事:丹 協子

茨城同窓会では今年度の計画に先立ち会員向けのアンケートを纏めたところ、美術館や博物館の見学の希望が多かったことをふまえて折しも東京国立博物館平成館で開催されていた阿修羅展の見学が計画された。4月29日(土)7時集合、帰着4時半の日程である。

眼目は仏像への造詣が深い山口文夫さんの解説を御願いしたことであった。放送大学の特徴である個人学習からどれほど応募があるかが懸念されたが、幸い25人の参加者があった。往きの車中で解説を拝聴し、入館後は自由観覧とし、帰りの車中では特別勘案されたクイズで体験したばかりの拝観の再確認をするなどの充実した行程であった。

心配された渋滞も混雑も早朝の為さほどでなく天気にも恵まれ、沢山の方々のお知恵とお力をお借りしての催しであった。

初めて出席頂いた方と 次回の「研究発表会」や「ふるさと探勝会」でも再会でき、更に入会につながり嬉しいことでした。

清純な“天平の美少年”を訪ねて

学生:竹内 孝

1. 出発

奈良・興福寺の創建1300年を記念し、同寺の中金堂再建事業にあわせて、半世紀ぶりに東京で国宝阿修羅展が開催されたのを機に、放送大学同窓会主催の阿修羅展鑑賞会が企画されました。

当日、4月29日(祝日:昭和の日)は、快晴に恵まれました。出発時刻の午前7時頃は、まだ肌寒い感じでしたが、葛貫壮四郎同窓会長、前茨城学習センター長塩見正衛先生ご夫妻、栄養管理の助川憲子先生をはじめ、総勢25名の参加者のうち、女性が15名、華やかで暖かな雰囲気の中バスに乗り込んで、定刻の出発となりました。

放送大学のために設置されたのではないと思われるような大学隣接のETC専用社会実験入口から高速道路に入りました。交通信号に煩わされることもなく、一路会場へと向いました。道中、仏像について造詣の深い山口文夫さんが阿修羅像について解説をして下さいました。山口さんが準備して下さいました資料は、カ



ラー写真入りの詳細なもので、丁寧な解説と相俟って、一同の心は早くも阿修羅展への期待で満たされておりました。

2. 入場

会場の東京国立博物館には、9時頃に到着しました。休日のこと故、混雑が予想されましたが、大勢の参観者に混じりながらも、9時40分頃には入場できたのは幸いでした。

3. 第1部 興福寺と中金堂鎮壇具

展示された47点のうち、国宝に指定されたものが42点を占める豪華な展示でした。

中金堂鎮壇具は、和銅3年(710年)の平城遷都にともない、藤原鎌足の子不比等により春日山の麓に創建された興福寺にかかわる優れた工芸品として知られているとのこと。それぞれの展示品の豪華さに圧倒される思いでした。

4. 第2部 国宝 阿修羅とその世界

これが、今回の阿修羅展の圧巻でした。

八部衆像(はちぶしゅうぞう)のうち6軀、十大弟子像のうち5軀、華原馨(かげんけい)などが展示されておりました。光明皇后は、天平6年(734年)に、亡き母、橘三千代(たちばなのみちよ)の一周忌供養のために、1年間で28 軀の仏像を作られたと云われますが、この時造られた八部衆像や十大弟子像は、脱活乾漆造(だつかつかんしつづくり)(麻布を漆で何層も塗り固める技法)という技術を駆使して作られたと云うことです。

いずれも表情豊かで、今にも私たちに話し掛けて下さるのではないかと思われるような親しみを感じました。華原馨は、豪華な造りで、予想以上に大きく感じられました。

貴重な国宝ですので、展示はガラス越しの鑑賞となるものと予想しておりましたが、そうではなく、直接身近に鑑賞できる展示であったのが、驚きでした。

一番拝観者が集まっていたのが、当然のことながら、阿修羅像でした。阿修羅像は、360度全方向から拝観できるように、特別に設けられたステージに単独で展示されていました。展示室に入ると、超満員の電車に乗り込んだような状態でした。阿修羅像ぐらいの身長しかない私の眼にまず飛び込んできたのは、来場された女性の方々の黒髪と男性の方々の背中でした。みなさんは、じっと阿修羅像を凝視して、動きません。係の人が「前列の方は、時計周りで移動して下さい」と盛んに呼びかけますが、これが耳に入らないかのように、動きがありません。セクハラと誤解されないように慎重に注意しながら、時間をかけて、なんとか阿修羅像が見える場所に移動することができました。

その表情は、あたかも生きていたかのような感じがしました。東京芸術大学名誉教授の水野敬三郎先生が評しておられる「清純な少年らしい風貌……その人間らしさと同時に、全体として超人間的な崇高さ」を肌身に感じました。阿修羅像に心惹かれたまわりの方々の眼は、一心に阿修羅像に向けられておりました。一人一人が、心の中で阿修羅像と対話をしているかのように感じられました。阿修羅の3面は、それぞれが異なり、魅力的な表情でありますので、これではすぐには動けません。

直接阿修羅像を目の当たりにして、最近の美術系大学の新生の間で、阿修羅像が人気抜群であることの理由が実感されました。西洋では、「美(醜)は皮一重にすぎない。」とか、「どのような美人でも飽きられてしまうもの。」とか云われますが、日本では、何と空洞の構造で、1300年を経ても、これほど人々の心を捉えて離さない像が創られたのですから、誠に不思議な、魔法のような技であると感嘆するほかはありません。

5. 第3章 中金堂再建と仏像

会場の講堂で開催された興福寺に関する講演会でも、説明されておりましたが、興福寺の中金堂は、平安時代以降7回も焼失し、繰り返し再建されたということです。焼失の原因が主に落雷のためであったと聞き、驚きました。同時に、当時の人々のご苦勞が思いやられました。

康慶作と云われる四天王(「持国天王像」、「増長天王像」、「広目天王像」、「多聞天王像」)は、いずれも迫力のある造りでした。

6. 第4章 バーチャルリアリティ映像

「よみがえる興福寺中金堂」阿修羅像

この部屋では、いろいろの角度からの阿修羅像の映像が画面一杯に展開されておりました。迫力のある映像から、改めて阿修羅像の魅力を実感しました。

7. 昼食と本館での仏像鑑賞

同窓会で準備して下さった弁当は、阿修羅展にふさわしい上品な内容でした。

昼食後、講堂での興福寺に関する講演会を聴講したり、本館1階の仏像の展示を鑑賞したりしました。特に、日本の仏像展示では、大型の木彫り像があり、山口さんの解説もあって、脱活乾漆造とは違った重量感のある仏像を鑑賞することができました。インドの仏像は、それぞれ豊かな表情が大変印象的でした。

8. 帰路

阿修羅展や本館の仏像鑑賞で、すっかり心を洗われ、それぞれが高貴な表情になったところで、一同、記念撮影後、午後2時、後ろ髪を引かれる思いで会場を後にしました。

帰路のバスの中では、放送大学らしく、阿修羅クイズがあり、しっかり本日の復習を済ませました。その後、同窓会で準備して下さった飲み物やお菓子でくつろいでいるうちに、

予定より30分も早く、午後4時、放送大学に帰着しました。

一同、きめ細かなご配慮でお世話して下さいました同窓会の皆様に感謝しつつ、感動的だった阿修羅展の思い出を胸に家路に就きました。



拝啓 阿修羅さまにお会いして

学生：飯島 美智子

いつの頃からか、長い間、憧れていた阿修羅さまに奇跡的な(?)チャンスでお会いすることができました。美しく晴れた深い緑の森の上野で、ついにお会いすることができました。

平成の館のやや奥まった第三会場のステージに阿修羅さまは、スリムなお身体と細く丸い棒のような腕を四方に伸ばして、ひっそりとおひとりで佇んで居られました。やや薄暗くされたホールは、阿修羅さまに魅き寄せられた数百人の人が作る熱気が湧いて来るような息苦しささえも感じさせて、私は想像していたよりも早めにホールを後にしていました。

千三百年前に造られた阿修羅さまが眉間にちょっとシワを入れて見つめた先には何があったのでしょうか。怒りの奥に隠された悲しみを見つめていたのでしょうか。



その当時のいにしえの人達は、あの少年のような阿修羅さまに何を託して祈ったのでしょうか。度重なる火災からの難も免れて、平成の現世にお姿を現された童女のような阿修羅さまに、他の仏像には無い格別の感慨を抱いてしまうのは何故でしょうか。

もし、再びお会いできる機会を得られるとすれば、静かに凝つと眺めて、ゆっくりとお喋りができればと思っていますが・・・。

蛇足になりますが、あの日、平成館の前に建つ表慶館で、あの超有名ブランドのカルティエクリエーションが開催されていたのを知り、早速、見学することに決めました。そこで眼にしたのは宝石のパワーとエネルギーに圧倒された一日でした。中でもインドのマハラジャ王が身に付けたと言われた首飾りには息を飲むほどのイエローダイヤモンドがまばゆい輝きを放っていました。

私は、日本の美と言われる静の美と西洋の宝石の創る美の両極を体験することができました。これも阿修羅さまの成せる業なのでしょうか。

早春の出会いは一瞬の間に過ぎて行きました。次のご対面は何時、何処へ導かれていくのでしょうか。今から楽しみにして居ります。何はともあれ、ありがとう、阿修羅さま！の一日でした。

研究発表会 行事報告

副会長：前島 寿子

5月17日同窓会主催で、下記の通り「研究発表会」を開催いたしました。

1. 日 時 5月17日(日) 13:00～15:30
2. 場 所 茨城学習センター 3F 第3講義室
3. 発表者&講演者
 - ・堀江 洋子(2009,3 大学院修了) テーマ 「水戸の洋楽事始め」
 - ・助川 憲子(管理栄養士・栄養教諭) テーマ 「今なぜ食育なのか」
 - ・朝野 洋一(茨城学習センター長) ご講評、「卒業研究の仕方」

堀江洋子さんの研究は、水戸藩という封建的武家社会の中で、洋楽はどの様にとらえられ、そして変わりゆく時代に洋楽はどの様に受容されていったか等、新しい研究で資料も少なく大変苦労をなされたお話もして下さいました。

助川憲子さんのお話は、食育によって国民が健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことを目的に2005年6月、『食育基本法』が成立されました。今回は、この食育とは何か、なぜ大事なのか、そして食の安全・健康的食事とは何か等、生きるための基本となる大切なお話でした。



最後には、朝野先生からご所感及び卒業研究の仕方のお話しをして頂きました。

当日は皆様のご協力もあって予想外に沢山の参加者で会場は一杯になり、また活発な質問もあって盛大な拍手のなかで終わることが出来ました。

水戸ロマンティックゾーンを歩く会

理事:坂井 健司

5月24日、ふるさと探勝会と共催で30名が参加し、朝野所長の詳しいご案内付で楽しい一日を過ごしました。

水戸家付家老中山備前守の墓所(桂岸寺)、祇園寺の諸生党の墓地、1920年の尼港事件の記念碑(袴塚町)など、茨城大学から末広町のエリアに余り知らない旧跡がたくさん残ってありました。小雨の中を2万歩ほど落伍者もなく元気に歩きました。ご苦労様でした。



世界遺産、雲崗・竜門石窟見学の旅

群馬県沼田市:角田 貫

平成20年10/1～10/6、第2回放送大学茨城同窓会訪中旅行(山西省から河南省へ)に参加させて頂き、葛貫会長始め皆さんには大変お世話になりました。

まず、第1回の敦煌石窟に次いで三大石窟を見られたことは、行く前からの夢でしたし、帰ってきた今の思いもすばらしい感激体験です。

大同市、雲崗石窟は東西1キロの石窟に45の洞窟に5万体の仏像が刻まれているといわれます。仏教伝来の敦煌石窟との東伝のつながりも感じながら、聞くと雲崗石窟の堀削は天興年間(398年頃)から正光年間まで北魏時代を通じて120年もの歳月を費やし、敦煌石窟や竜門石窟が通史というなら雲崗石窟は北魏支配者の宮廷内秘事を暴いた時代史乃至秘史でもあると説明されます。文成帝は自分をモデルに仏像を彫らせました。6人の皇帝一人皇太子一人の皇后などいくつも時の帝をモデルにしてあるエピソードを聞きながら見学をしました。

竜門石窟は洛陽から13キロのところ、伊河の兩岸1キロに石窟1352、仏がん785、塔39、造像97,306、碑3600他と膨大なものでした。北魏の洛陽遷都(494)頃から東西魏、北齊、随、唐、五大十国、北宋と400年にわたって造営されたといえます。円熟した唐代の像は違和感なく美しい。特に奉先寺洞(初唐675)本尊盧舎那大仏の端正な面相、大きな半月形の眉、はらかな世界を見つめる目、緩和でゆったりしたムードが気に入りました。高宋の造建でモデルの皇后則天武后も化粧料を2万貫助けたとか。



その他素晴らしいものをたくさん見せてもらいました。三龍壁と観音堂、懸空寺、応県の木塔、宋代の建築と塑像の晋祠、瑠璃塔の広勝寺、関帝廟、かつ国王車馬坑、洛陽博物館、白馬寺、それぞれ多くの感銘を受けました。勉強不足を恥じながら今後へのヒントを沢山得てきました。NHKの「その時歴史が代わった」で、三国志の関羽の場面では感激して魅入っていました。

観光面で北京から大同へ向かう道すがら、オリンピックの鳥の巣、水泳館、観光ラッシュの八達嶺を過ぎて、車は走り続けました。100両つなぎの長い長い石炭列車が広い地平線を通りました。夕焼けの進むその荒野にやがて月が出て、また反対から来た100両の石炭列車と長い時間がかかってすれ違っていきました。テレサテンの「我的愛人再見」を聞きながら・・・まったく素晴らしい情景でした。

食事もおいしく、料理人が料理を食べきれないほど出すのが接遇の気持ちだと言ひ、平らげると残すまで持ってくる人がいて感激しました。

また、機械化されずに、見渡す限りのトウモロコシ、アワ、ワタの畑や縦穴住居で生活している人々を見ました。また、万博ですすむ開発と併せていろいろ考えさせられました。

メンバーがそろって健康で素晴らしい旅のできたことを添乗の竹内さんにご尽力いただいた方々、皆さんに心から感謝申し上げます。有り難うございました。

同窓会連合会総会報告

会長:葛貫 壮四郎

同窓会連合会総会および連合会会議に参加しましたので、下記に報告します。

記

1. 日時

5月30日 11:00~15:00

2. 場所

放送大学本部セミナーハウス

3. 議題

- ・総会:1号議案から7号議案
- ・連合会会議:H21年度の運営方針、創立20周年記念事業など

4. 参加者

全国の同窓会会長他 24名参加

5. 報告概要

5.1 総会

- 1)H20年度卒業祝賀パーティ:約950名参加、トラブルもなく無事終了
- 2)H20年度収支決算:一部記入漏れがあり、修正することで承認された。
- 3)会則変更:本会を大学本部に変更、役員任期を再任OKに、議長は出席者の中から選出に変更
- 4)連合会役員選出:会長:埼玉同窓会会長(森岡)、副会長:茨城同窓会会長(葛貫)
理事:栃木、群馬、東京第一、足立、多摩、文京、神奈川、山梨
監事:千葉、長野
事務局:埼玉同窓会
- 5)H21年度計画:創立20周年記念事業を秋に実施、同窓会の全国化推進、卒業祝賀会の実施、会報の発行など

5.2 連合会会議

- 1)各同窓会の状況報告:会費の徴収方法、運営方法、学習センターとの連携方法など活発に情報交換された。
- 2)公孫樹の配布方法:従来、コスト削減のため、紙からPDF配布に変更。紙配布が良いか、PDF配布がよいかは結論は出なかったが、今後委員会で方針決定

- 3)各同窓会会員への連合会ドメインのメールアドレス:希望者には付与(葛貫担当)。
終了後、本部内で懇親会(2,000円会費)を実施されました。

今後の行事案内

「国立歴史民俗博物館・香取神宮めぐり」のご案内

副会長:矢野 正義

茨城同窓会・ふるさと探勝会共催、茨城学習センター後援で、千葉県佐倉市の佐倉城址の一角にある国立歴史民俗博物館と香取市にある香取神宮を訪ねます。歴史民俗博物館は日本の文化、歴史、民俗について総合的に研究・展示する博物館で、原始・古代から近代にいたるまでの実物資料や復元模型が展示されています。また香取神宮は、旧社格は官幣大社。日本全国に約400社ある香取神社の総本社で国内屈指の名社です。大勢のご参加をお待ちしております。

記

1. 日:平成21年8月30日(日) 雨天決行
2. 集合場所&集合時間:JR石岡駅東口 8時00分
3. 募集人員:40名(先着順受付・定員になり次第〆切)
4. 参加費:2,000円(昼食代、入館料込)
5. 申込方法:茨城学習センターもしくは茨城同窓会(矢野副会長)までお申し込みください。参加費は当日徴収します。

連絡先:茨城学習センター:029-282-0683

矢野副会長:029-273-8150

茨城同窓会メールアドレス:ibaraki@uair-dosokairengo.net

6. 申込〆切:平成21年8月20日(木)
(上記内容の一部変更が生じる場合があります。)

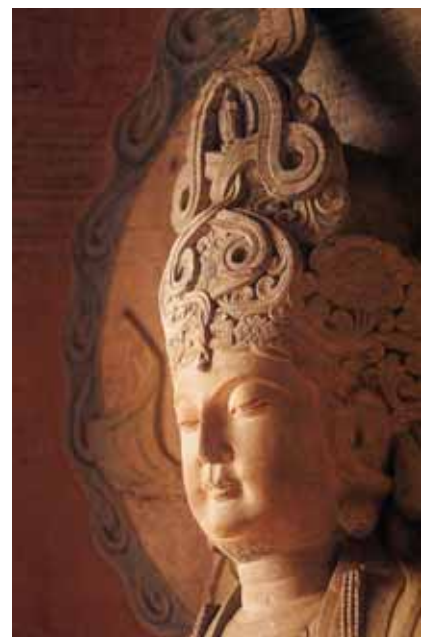
第3回訪中旅行募集:「中国西南部の世界遺産(楽山・峨眉山・大足)を巡る 5日間

副会長:前島 寿子

今年も、恒例の訪中旅行を下記のように、実施します。

記

1. 日時:10/11(日)~10/15(木)
2. 場所:中国西南部の世界遺産(楽山・峨眉山・大足)
3. 出発/到着時間:出発:10/11 成田(08:55発)、
到着:10/15 成田(21:00着)
4. 費用概算:¥169,000(20名以上の場合、旅行保険、
空港施設使用料は別途料金)
5. 申込方法&申し込み先:所定書式を下記からダウンロード
(<http://uair-dosokairengo.net/ibaraki/doc/no3entry.xls>)し
会長までFAX(029-352-9495)、メールなどでご連絡ください。
6. 締め切り:8/15
7. 見どころ:中国西南部に華開いた仏教芸術の代表といえば、
大足石窟です。大足石窟は中国三大石窟(洛陽・龍門石窟、
大同・雲崗石窟、敦煌・莫高窟)と比較しても芸術的価値や規模
など勝るとも劣らない素晴らしい石窟です。



(大足石窟の仏像)

連絡事項及びお願い**放送大学第2学期学生募集協力をお願い**

会長:葛貫 壮四郎

2009年度第2学期の学生募集が6月15日から8月31日の日程で開始されました。茨城同窓会では、昨年からの学生募集に協力しております。

協力をお願いしたい事項として、下記に示しますので、会員の皆様がたのご協力をお願いします。

- 1) 友人・知人に、「放送大学で学びませんか」と声をおかけする。
- 2) 元職場や現在の職場の総務部門等に放送大学のことをお話していただき、食堂や、会社の入り口等に、パンフレットや募集要綱を置かせてもらう。必要であれば、学習センターの関係者と一緒に訪問し、挨拶を行う。
- 3) 元職場のOB会の会報や、集まりの時に、放送大学をPR頂く。
- 4) その他、皆様のアイデアで放送大学をPR頂く。

放送大学のPR資料は、一部を同封しましたが、不足する場合、学習センターに連絡し、郵送していただけてください。

連絡先:茨城学習センター 電話 029-282-0683

茨城同窓会 会費振り込みのお願い

会計:猪膝 重之

茨城同窓会会費は、1,000円/年ですが、5年毎に一括納めていただいております。5年を経過している会員には、会報送付時に振り込み書を同封しております。振り込み書が同封された会員の方は、ゆうちょ銀行ATMで振り込みをお願いいたく申し上げます。

なお、会費振り込みが1年を経過しますと、会報等の送付は中止させて頂いております。

住所変更などのご連絡を

会報や行事ご案内など、皆様に郵送しておりますが、宛先不明で戻って来てしまう方がおります。住所・氏名に変更が生じた場合、会長宛にご連絡をお願いします。

現在、滝澤 晃子様(つくば市)、鈴木 清美様(水戸市)が宛先不明です。何方かご存じの方は居られましたら会長までご連絡ください。

会長連絡先:TEL:029-273-3341, FAX:029-352-9495

茨城同窓会メールアドレス:ibaraki@uair-dosokairengo.net

編集後記

今回、新しく入会された堀江様から、貴重な卒業体験寄稿をいただきました。学生の竹内様、並びに飯島様から阿修羅展見学記の寄稿を、さらに、角田様から第2回の中国旅行記の寄稿をいただきました。また、各行事を担当されている役員・理事さんから行事報告、行事案内をいただきました。お礼申し上げます。

今回から、機関紙の構成を2段組から1段組に変更して編集者の負担軽減と、文字サイズを大きくし読みやすくしました。

(役員・理事一同)